

## 令和6年度 第1回豊田市博物館運営協議会

日 時 令和6年8月6日（火） 午前10時30分～正午  
場 所 豊田市博物館 セミナールーム  
出 席 豊田市博物館運営協議会委員 8名  
黒澤 浩会長、布垣 直昭職務代理、新美 倫子委員、北村 和宏委員、  
釘宮 順子委員、平野 敬一委員、西塔 隆委員、深谷 暢樹委員  
(欠席：柴田みどり委員)

事務局 博物館 6名  
村田館長 高橋副館長 鈴木副主幹 倉林担当長 伊藤担当長 駒野主任主査

### 1 博物館長 あいさつ

無事、4月26日に開館することができた。「みんなでつくりつづける博物館」ということをテーマに、様々な博物館の関係者と色々な形で活動し、多くのお客様に御来館いただいた。秋からは企画展が始まるので、皆様には幅広い御意見をいただきたい。

\*委員紹介 自己紹介

### 2 博物館、運営協議会について概要説明 資料1

### 3 会長選出

### 4 議 題

(1) 博物館の開館後の利用状況等について 資料2  
委員

観覧者の数は、当初の想定数と比較するとどうか。

事務局

当初想定人数は、年間10万人。今のペースであれば、想定以上の観覧者数なので、想定以上の実績が見込まれる。

委員

アンケートは取っているか。同じ人が何度も来ているのかどうかは分からないか。

事務局

アンケートはまだ実施していないので不明である。秋の企画展に向けて実施する。感覚では、市内在住者のリピーターは多いと思われる。市内在住者は証明書の掲示で常設展示が無料になるが、説明しなくても証明書を提示いただける方が増えた。

委員

観覧者の一般の区分は市外の人か。

事務局

御指摘のとおり。4か月平均で、7割くらいが市内在住、3割くらいが市外在住の方である。開館当初、市外在住の方は2割未満だったが、最近は4割を超える時もある。

委員

来館者からの意見はどのようなものがあったか。

事務局

施設に対する意見では、建物について良い意見が多い。アクセスについては、自動車での道のりがわかりにくいという意見が多い。自動車で来館する人が非常に多く、迷う方もいる。その対策として、ホームページの掲載内容や、看板の設置等により分かりやすい案内を進める計画している。

委員

来館する自動車に対する看板の追加はできないか。

事務局

国道に新規の看板を立てることは難しいと聞いている。自動車で来館する際に地図アプリを使用する方も多いと思うが、アプリ運営者側の地図への反映がまだ不十分であり、近隣に御迷惑をおかけしている。電柱に看板を付ける等、できる限り対応はしていく。

事務局

展示に対する意見として、「とよたモノ語り」は、圧倒的な物量や豊田市の歴史・自然の多様性を知ることが出来ると評価をいただいている反面、上層に配置された展示が見づらいとの御意見がある。典型的な博物館の展示手法である、1点ずつ資料を見ることを重視した御意見だと思う。「とよたたんきゅうラボ」は、大変好評である。本市の地形と人々の営みが把握しやすい。「とよた記憶トラベル」は、大変に好評であり、「記憶」を重視している点を評価いただいている。自分の記憶を提供したいという声も多い。2階「みんなの研究室」は、実際に資料を選び、触ることができ、高評価である。特に親子連れでの御利用が多い。一方、利用時のお願い事が多いという意見もあり、簡略化する方法を検討している。

委員

とよたモノ語り（集合展示）の展示替えはないか

事務局

展示替えについては、既に実施済みのところもあり、今後の計画もしている。大幅に変えるのではなく少しずつ変えている。ガラ紡水車など、展示の構造上、大幅に変えることが難しいものもある。

委員

ショップについて、美術館のショップのイメージで行き、勉強するために歴史や自然の本を購入したかったが、博物館では購入できず、お土産しかなく残念だったという声があった。

事務局

ショップは民間の事業者が運営しており、販売物の選定は一任している。市が必要と判断する書籍の販売については、その準備を進めている。

委員

開館記念で実施した「ペーパーサンクチュアリ」と「鎧を着てみよう」が、同じ展示室で隣に設置されていたことに違和感があった。コントラストが大きく、コンセプトが不明で、博物館の意図はなんだったのか。鎧を着るということはどういう意図があるのか。鎧を着るというのは戦に行く人を殺しに行くという事なのに、隣で戦争について考えさせられる話をしており、どうなのかと思った。

事務局

「鎧を着てみよう」は、これまでも郷土資料館などで行っており、子どもが歴史に興

味を持つきっかけ作りと考えていた。長篠合戦屏風図の高精細画像を用いた拡大写真の展示は、豊田市の所蔵品として、親しんでもらいたいという考えのもと実施した。現状の展示室1・2が、2夏の枯らし期間を経ていないため、指定文化財などを展示できないことも理由の一つである。「鎧を着てみよう」は、これまで楽しさに主眼を置いていたものの、実際に世界の戦争の現実を知ってもらうことも大切なので、その両方を実現するために今回の配置が最適と考えた。

事務局

豊田市博物館の常設展示の意図をお伝えする。例えば、縄文・弥生時代の紹介をする時に、豊田市博物館は、時間軸の進行方向にこだわって配置しているではなく、バラバラに配置している。そのため、1つの事を調べる時も、主体的に探し回って組み合わせて探求する事が必要である。これは、鎧のイベントと戦争の展示についても言えることで、戦いや戦争の問題については様々な考え方があり、その考え方を博物館が提示するのではなく、1人1人が主体的に気付いて、自分事として考えてもらうということを狙っている。そのように、来館者に考え方をゆだねる展示をしていることが、考え方や答えを教えてほしい人にとって、分かりにくいと言われている理由である。しかし、豊田市博物館としては大切にしていきたい部分である。

委員

美術館・博物館を一緒に知ってもらいたいし相乗効果となってほしいが、博物館を知らない人が多く、新聞記事で何もないと言われていたが、何か分かりやすくあるのではなく、自分で考えるというコンセプトがあるというのが分かった。いろんなものがちりばめられているということが分かった。何もないのではなく、一方的ではない展示であり、どう発見していくのかが大事だと分かった。

事務局

現状は指定文化財などを展示できなかったが、秋からは指定文化財の展示ができるので、文化財資料や名宝を見たい人の期待にも応えられるかと思う。

委員

博物館浴などの癒しの効果や、市外からの人の憩いの場にもなってほしい。

委員

ショップについて、どこを向いて、誰に対して売っているのかが分からない。なぜ博物館で売っているのか分からないものもある。豊田らしいもの、子どもが手に取りやすく博物館の記憶が残る商品、キッズコーナーの木のおもちゃを売ってほしい。キッズコーナーで遊んだ時に持って帰りたいと言っていたので、欲しい子どもは多いと思うので検討してほしい。常設展示については、展示物の背景に人の営みを感じられ、とても面白い。しかし、それに気付けない人には何もない展示だということも分かるので、ハードルの高い展示ではあるので、意見が二極化しているのだと思う。私の意見としては、分かりやすい展示だけでなく、このような展示は続けてほしいし、みんなにも気付いてもらいたい。

記憶展示について、中山間地域へのエアコンの普及や気候変動みたいなものは、今後とても貴重な記憶になると思う。SNS等でより多くの記憶を集めて欲しく、それを10年、50年、100年続けた時に貴重な歴史になる。今は通過点であり、日々の暮らしの1ページが歴史の一部だと、市民に伝えたいし、たくさん集める方法を考えていきたい。

事務局

まず、ショップだけでなくショップとカフェについては、民間の事業者運営している。現在は、運営や商品展開については、アドバイスはするが、基本的には事業者の経営上の判断に一任している。豊田市らしいという点では、自動車製造過程で出た端材のアップサイクル商品や、市内の福祉事業所で作成した地域の材料を使った商品等がある。

開館してすぐの営業で、入館者数の見込みが明確ではない状態で運営しているため、入館者数が安定するまでは事業者の経営判断を信頼することがベターと考えている。御意見は、今後の参考にさせていただく。常設展については、気付きを促す方向で展示の見せ方やキャプションの改善をしていく。

委員

博物館は開館して時間が経っておらず、新しい取り組みを試みているので、様々な意見が出てくるのはやむを得ないので、これからも様々な意見を糧にして魅力的な博物館をつくってほしい。

## （２）令和６年度の展覧会事業について 資料３

委員

次の展覧会の行事の縄文クッキングとは、どのような内容か？

事務局

縄文時代にあった食材で、現代の料理を行う予定である。

## <全体について>

委員

運営協議会は年２回の実施だが、増やせないか。

事務局

御意見は随時頂ければ、と考えている。委員間で個別に意見交換など行う場合、事務局も参加できる際は参加させていただく。

委員

地元からのお願いだが、博物館や美術館に人がたくさん来た時に、地域の生活を守りたいと思っている。イベントや工事があると、「家から出られない」「家に入れない」「渋滞する」等の声があるので、交通渋滞対策や周辺住民・住宅への侵入への対策等を引き続きお願いしたい。

事務局

整備中も、開館してからも、地域住民の方の御協力があってこそ施設が成り立つ。地域の方へ御迷惑がかかりにくい運営に努めたい。

委員

せっかく専門的な人が集まっているので、総評を話す場ではなく、専門的な意見を聞ける場になるような運営にしてほしい。例えばショップの販売品への御要望もあったが、名古屋市科学館のショップの選定委員では苦い経験があり、売上収支にばかり目をむけると、博物館ならではの商品が作りづらくなるため、バランスの良い考えが必要で、そういった経験も参考に話せるかもしれない。意見を聞くだけでなく具体的な解決への議論も大事である。戦争に関わる展示内容はタブー視されがちだが、世界の争いや分断が絶えない今、目は背けてはいけない。偏った見方とならないよう客観視する事が最も大切だと思う。また豊田市博物館の新しい挑戦でもある展示に賛否あるかもしれないが、

改善を加えながら挑戦を諦める事なく前向きに考えられる博物館であってほしい。それができる博物館だと思う。そのようなチャレンジをした結果の報告も今後あったら良いと思うし、次回以降は、議論の時間を十分とる必要があると思う。

## **5 事務局から連絡**

## **6 博物館常設展視察（希望者のみ）**